

**分野** 地域振興／教育・人材育成

**キーワード** 環境活動／環境コミュニケーション／エネルギーコミュニケーション／環境教育／脱炭素社会／まちづくり／地域活性化／環境アート／環境教育ゲーム／グループ・ダイナミックス／合意形成／サステイナブル・ツーリズム／循環型フードシステム／循環型経済

## 脱炭素社会に向けたコミュニティの形成、環境活動が環境配慮行動に与える影響 環境コミュニケーション、エネルギーコミュニケーション、環境教育、環境アート、持続可能なまちづくりや地域活性化などについての研究、合意形成



環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻  
准教授

**甲田 紫乃**  
KODA, Shino

**SDGs 関連項目**

 <p>3 すべての人に 健康と福祉を</p>	 <p>4 質の高い教育を みんなに</p>	 <p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p>	 <p>11 住み続けられる まちづくりを</p>
 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	 <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p>	 <p>15 地の豊かさも 守ろう</p>	 <p>17 パートナーシップで 目標を達成しよう</p>

### ● 研究内容

研究者自身が活動の当事者と協同的実践を行うことで現状を改善するというグループ・ダイナミックスの方法論を用いて研究を行っている。これまでにオーストリアやフィンランドを研究フィールドとして、地域活性化の取り組み(オーストリア)や自治体が住民に対して行う環境活動(フィンランド)、森林環境教育(オーストリア、フィンランド)、ソーシャルメディアなどを活用した環境教育(フィンランド)や、植林活動を主軸としたグローバルな環境活動としての環境教育(フィンランド、オーストリア、日本)、人々の環境意識を啓発する環境活動としての環境アート(フィンランド、オーストリア)などについて研究してきた。これらの研究の成果の一つに、地域住民等が参加する会議における参加者の関係性として、Horizontal Relationship(水平的関係性)の提唱があげられる。帰国後は、鳥取県における関係人口(鹿野町)に関する研究や地域活性化に関する研究(佐治町)、森林環境教育を軸とした地域活性化に関する研究(八頭町)をはじめ、環境意識の啓発活動の一環としての環境教育ゲームの研究や環境アートなどに関する研究を、学生や地域住民との協同的実践の形で行っている。また、2023年からは、鳥取市が環境省の「脱炭素先行地域」に選ばれたことを受け、鳥取市若葉台地区で脱炭素社会に向けたまちづくりについての研究も開始している。

研究の成果を社会に反映させ、貢献させていきたいという思いから、社会へ働きかける実践も行っている。その一例として、鳥取県による「トットリボーン!(とっとりエコライフ構想)」のアドバイザーとしての関わりがあげられる。アドバイザーとして、COP28の県内大学生の派遣事業にも関わり、この事業では、事前研修での講義などとともに、COP28にも同行した。これに続く学生の教育プラットフォーム「TRY! (TottoReborn Youth!)」のアドバイザーとしても引き続き関わっている。

### ● 想定パートナー

自治体、環境活動を実施する企業、教育関係、商工会、NPO、NGOなど

### ● 取組実績

- ・ここな展(鳥取市、日本) ・八東ふる里の森(八頭町、日本) ・いんしゅう鹿野まちづくり協議会(鳥取市、日本)
- ・五しの里さじ地域協議会(鳥取市、日本) ・若葉台地区(鳥取市、日本) ・醇風地区(鳥取市、日本)
- ・成人教育／地域活性化機関SPES Zukunftsakademie(シュリアーバッハ、オーストリア)・自治体(国外): Kirchschlag(キルヒシュラーケ、オーストリア)
- ・自治体(国内): 鳥取県 ・自治体(国内): 鳥取市 ・廃棄物管理会社: Turun Seudun Jätehuolto Oy (トゥルク、フィンランド)
- ・廃棄物管理会社: Pirkanmaan Jätehuolto Oy(タンペレ、フィンランド) ・コンビニエンスストア(京都、日本)

### ● その他

【著書(編・共著)】

- ・SDGsを考える—歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会(範囲:活動における関係性:持続可能な社会に向けてのパートナーシップのあり方) ナカニシヤ出版 2020年3月

【著書(分担執筆)】

- ・地域の未来を変える空き家活用—鹿野のまちづくり20年の挑戦(範囲:関係人口を創り活かすための鍵) ナカニシヤ出版 2021年2月
- ・こちら公立鳥取環境大学環境学部です!(範囲:活動の先にあるものを目指して) 今井出版 2019年3月
- ・21世紀国際社会を考える—多層的な世界を読み解く38章—(範囲:環境問題研究の新潮流—フィンランドの事例研究で見る環境配慮行動と環境意識—) 旬報社 2017年11月

【関連論文等抜粹】

- ・Koda, S (2016). Horizontal Relationship and Environmental Communication: A Case Study on Collaborative Activities between SPES and Local Residents in Austria, The International Journal of Environmental Sustainability, Volume 12, Issue 2, pp.17-31.
- ・甲田紫乃 (2012). コンビニエンスストアにおける資源浪費の構造—参与観察に基づく短報一, 集団力学, 第 29 卷, pp. 87-103.
- ・Koda, S. (2012). Theoretical Approach to the Collaborative Environmental Activities: Household Waste Disposal towards Environmentally Friendly Daily Life, International Journal of Humanities and Social Science, vol.2, No.6, pp.104-110.

20